



ニューズレター No. 115

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<https://lora-saga.jp/> <https://lora-saga.jp/ialt/>

〒840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学理工学部内 TEL/FAX : 0952-28-8712 令和8(2026)年3月3日

低平地研究会 歴史・文化専門部会 共催 第15回地域学シンポジウム

「近代日本海軍のはじまり -佐賀藩と幕府の挑戦-」

今年度は三重津海軍所跡を含む「明治日本の産業革命遺産」がユネスコの世界文化遺産に登録されてから10周年を迎える節目の年です。そこで、幕府と佐賀藩が果たした歴史的役割を講師三人の研究成果とともに近代海軍史の歩みを改めて振り返る『第15回地域学シンポジウム「近代日本海軍のはじまり-佐賀藩と幕府の挑戦-」』を、佐賀大学地域学歴史文化研究センターとの共催で下記のとおり実施いたします。

聴講無料(事前申込制*申込締切3/12)となっておりますので奮ってご参加ください。

記

日時：2026年3月14日(土) 13:00~17:00
(12:30開場)

場所：佐賀大学本庄キャンパス教養教育大講義室
(お車でお越しの際は南部バイパス側から入構し、附属図書館北ゲートをご利用ください)

講師と題目：

- 金澤 裕之 氏
(防衛大学防衛学教育学群 教授)
「幕府海軍13年間の意義」
- 小峰 彩椰 氏
(北海道江差町教育委員会 学芸員)
「幕府軍艦 開陽」
- 坂本 卓也 氏
(佐賀大学地域学歴史文化研究センター 講師)

第15回 地域学シンポジウム

近代日本海軍のはじまり

佐賀藩と幕府の挑戦

講演者

- 金澤 裕之 (防衛大学防衛学教育学群 教授) 題目: 幕府海軍13年間の意義
- 小峰 彩椰 (北海道江差町教育委員会 学芸員) 題目: 幕府軍艦 開陽
- 坂本 卓也 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター 講師) 題目: 幕府海軍と佐賀藩海軍

日時 3月14日(土) 13:00~17:00 (12:30開場)

会場 佐賀大学本庄キャンパス 教養教育大講義室

聴講無料
自動車での入場
【時間無料】
※1回1名につき
100円未満の現金

佐賀大学地域学歴史文化研究センター
〒840-8502 佐賀市本庄町1 TEL/FAX 0952-28-8378

ウェブフォーム(スマートフォン・パソコン・タブレット等)での申込み

右の二次元コードまたは下記URLよりお申込みください。
<https://forms.office.com/r/n6YCWpuFpK>
※1回の入力で1名のみお申込みいただけます。
※講演会終了までは、応募時のメールアドレスを変更しないでください。



電話・FAXでの申込み

下記の佐賀大学地域学歴史文化研究センターの番号へお申し込みください。

●電話の場合
平日10~12、13~15時にお願います。

●FAXの場合
「3/14参加予約」と書き、
①氏名、②お電話番号をご記載ください。

TEL/FAX 0952-28-8378

お申し込み期限:3月12日(木)

会場

佐賀大学本庄キャンパス教養教育大講義室
(佐賀市佐賀本庄町1)



※駐車の方は、南門(出入口)、図書館北のゲートをご利用下さい。

*画像をクリックすると参加申込ウェブフォームへ飛びます。

低平地に関する豆知識—その 40—

低平地と木杭基礎

佐賀平野では、厚さ 10m以上の非常に圧縮性の高い粘性土地盤が堆積しており、吉野ヶ里の時代から近代まで構造物の基礎に木杭を利用してきた歴史があります。そして、佐賀城の基礎や三重津海軍所ドッグ跡の木製護岸などの遺構から木杭が多く利用されていたとの報告があります。しかし、戦後の高度成長期になると、急速に大量のインフラ整備が全国で展開され、構造物の基礎には、形状や強度が均一なコンクリート杭や鋼管杭が主流となりました。その結果、木杭は旧来工法として、構造物の大小に関係なく陰を潜めて「木杭は腐朽しやすく耐久性に劣るのでは？」という声から、次第に敬遠されてきました。2004年に発足した木材利用研究会（佐賀）では、2010年から、クリークの木柵を対象に、3年、5年、10年の経過年数ごとに、木杭の腐朽度などの調査を行いました。その結果、耐久性にほとんど変化がないことが分かりました。2026年1月、県道神埼北茂安三田川線の改良工事にて、30年以上経過した長さ6mの木杭基礎が出現しました。当研究会にて、引き抜かれた木杭をチェーンソーにて切断したところ、鮮やかな年輪の断面が確認されました。水中や地下水以下では、腐朽菌の発生が小さいことから、耐久性はそのままということが分かりました。多様性の時代、スギやヒノキなどの間伐材を、形状や種類が不均一であっても、カーボンストックの観点から構造物の木杭基礎として有効利用したいものです。



写真：30年経過した木杭基礎断面

（福岡仁：（公財）日本技術士会九州本部佐賀県支部長）

低平地防災特別部会 講演会のご案内

「水工学」をテーマとした講演会を開催いたします。

日時：令和8年3月18日（水） 14:00～17:00

場所：佐賀大学本庄キャンパス

理工学部 6号館都市大講義室

参加費：無料（自家用車要入構料）

講演会“水工学に関する最近の話題”

- ・講演① 非線形波動の物理と数値シミュレーション：水深積分形方程式の系譜（仮題）神戸大学 教授 中山恵介氏
- ・講演② 東京湾への流入負荷および地形の変化が水質に与える影響 港湾空港技術研究所 領域長 井上徹教氏
- ・講演③ 微分形式に基づく数値流体計算（仮題）東京都立大学 准教授 新谷哲也氏
- ・講演④ 筑後川におけるダムによる洪水制御と久留米市街地の内水氾濫対策の効果（仮題）佐賀大学 押川英夫氏

■参加申込方法：メールでお申し込みください。

✉ lora@lora-saga.jp 低平地研究会 事務局

（参加申込締切：3月17日）

基盤整備専門部会 講演会開催報告

基盤整備専門部会では、低平地に関連する地盤工学の最新情報を共有することを目的として、講演会「低平地に関連する地盤工学の最近の話題」を2025年12月19日に開催しました。株式会社



眞崎氏のご講演

ワイビーエムサービスの眞崎照吉氏、木材利用研究会（佐賀）の福岡仁氏、そして佐賀大学の根上武仁講師が登壇し、有明海沿岸道路盛土の沈下試算、木材利用の実践事例、佐賀市南部における液状化危険度予測など、低平地の基盤整備に関わるテーマについての講演がなされ、県内外42名の参加者とともに佐賀低平地における地盤工学的問題の理解が深まる機会となりました。



環境専門部会・都市空間専門部会

公開研究会「佐賀の水辺のこれから」の開催報告

2026年1月14日佐賀大学理工学部4号館1階デザインギャラリーにて、環境、都市空間専門部会の共催による公開研究会「佐賀の水辺のこれから」を生配信と併用で開催しました。

話題提供としてオランダのデルフト工科大学修士課程修了（昨年10月）の稲井佳那子氏による「水と寄り添うまちの再編—佐賀市における水路空間を中心とした持続可能なブルーグリーンネットワークの提案—」のご講演の後に佐賀の水路空間の活用に関する意見交換会が行われました。会場と配信、合わせて約45名の参加者が本イベントに出席し、意見交換会では、5名のパネリスト（稲井佳那子氏、笠真希氏、川崎康広氏、後藤隆太郎氏、三島悠一郎氏）と参加者の活発な議論により佐賀低平地の防災や地域活性化に向けた水路空間のポテンシャル及び今後の課題等について様々なご意見が得られて、有意義な機会となりました。



地域創生専門部会 刊行本のお知らせ

- ・欠史八代と崇神天皇・垂仁天皇（1月刊行）
 - ・佐賀の歴史IV—神武天皇東征の真実（3月中刊行予定）
- 上記の2刊が発刊されます。配本ご希望の方は事務までメールでお知らせください。（※会員様送料無料）

■編集後記：この冬の目まぐるしい気温変化に不調を訴えるの方が増えているようですので、皆様どうか体調管理にはお気をつけてお越しくださいませ。編集：三島悠一郎、武富（lora@lora-saga.jp） 表紙写真：中尾亮太氏（佐賀大学）